

● 高澤良一 第四句集 ぱらりとせ

● 雑

水族館

ドレッツシー・ハナミノカサゴ水搔けり

墨かぶりエイの涼気を曳き来たり

ゴンズイの吼ゆるが如く息継げり

なさけなき顔のオオカミウオ昼寝

ヘコアユのきんぴらごぼうめくが揺れ

大海馬しるしばかりの背鰭振り

乙なもの大海馬の立ち泳ぎ

のんのんとウマズラハギが近づき来

拗ねる癖吻にありありフエヤッコ

毒針を何処に仕込めるミノカサゴ

マンボウのプローションに見とれをり

いそいと竜宮城ヘルリスズメ

いっせいに顔の向き替えデバスズメ

皮剥の尾鰭背鰭の鰭拍子

ミズクラゲほうと魅入れば又昇る

まんぼうの涼しげな胴スポーツー

アロワナの腹部をくぐりぬるむ水

昼行燈鮫鰻向きを変へにけり

ナンヨウハギそんじょそこらにない色で

シードラゴン搗布林を散策す

大海馬眼をしょぼつかせぬたりけり

カゴカキダイカゴカキダイに追いつきぬ

春さきのテツポウウオの口捌き

永日のマイクにあうあうアシカシヨ

踊るならタンゴに如かず高脚蟹

淡水水槽

ペレズテトラ・コンゴテトラ・エトセトラ

皮下脂肪揺りてセイウチ泳ぐなり

水槽の隅に大ハタでろりんと
水切つてサヨリの鼻の尖る訳
サギフエの乙姫さまへご注進
カーニバルサンバにのりてミノカサゴ
クー・クラックス・クラン団員エイ飛来
岩化してダルマオコゼとなる暮春
カンガル^{植物園}ーポーの木の花飛交うて
マンゴーの見ゆる席にてグアバジュース
ベニヒモの木とやぼおつとして来たり
ソロモン産ポトス茂みをつくりけり
覗くさへミミカキグサのこそばゆし
大温室全開バナナに風入れて
動悸打つごとく^{カナダ アサバスカ氷河}氷河の雫かな
雲に日の入れば氷河の懽然たり
草の花氷河すさりし跡に充つ
音も無く氷河の上を水はしり
光度増し氷河息づきあるごとし
万年雪きれいきれいと日本語
氷河焼けしたるガイドのジョーク好き
氷壁を煽りて発てるブル^{*ブルージェイは北米産青懸巢}ーージェイ
サングラス断てり氷河の乱反射
真輝く氷河を前に道消ゆる
足下より煌きわたる大氷河
大氷原わたる太陽古びずに
目くるめく光体となり氷河馳す
氷河湖を見つむこころもエメラルド
水餅のやうに氷河の横たはる